

- 一連の核物質防護事案における根本原因の一つである「現場実態の把握の弱さ」への対応として、発電所長やセキュリティ管理部長をはじめとした管理職が頻繁に現場を訪問
現場の防護直員との積極的な対話により課題を抽出
(改善措置項目：管理者による現地現物での業務の把握向上)
- 対話の中で、「夏場において、核物質防護設備まわりの草刈りを防護直員が実施しているが、敷地が広大で作業の負担が大きいいため、他のセキュリティ業務に影響がでないか心配」との声を確認
- これまで核物質防護設備まわりの草刈りについては防護直員が担当していたが、その他の箇所と区別せず発電所全体の草刈りを一括で行う運用に変更したことにより、防護直員の負担を軽減し、業務に集中できる環境を整備

草刈りの様子



※核セキュリティのルールに基づき撮影

草刈り前後の様子

刈り取り前



刈り取り後



柏崎刈羽原子力発電所における取組み

【改革の進捗状況】「柏崎刈羽原子力発電所の志」の実践

- 当発電所の「志」に記載した「みんなが誇りを持って、笑顔で生き活きと働く発電所」を目指し、その一環として、2022年4月下旬から「朝のあいさつ運動」を開始
 - ・発電所長をはじめとした発電所員とUKビルの本社社員が正門や出社バス降車場所等に立ち、出社する所員と朝のあいさつを通じたコミュニケーションを実施中(6月23日までの実績：27回)
 - ・所員からは、「あいさつが活発になり、所内でのコミュニケーションが取りやすくなった」との声
- また、目指す姿として、「地域を愛し、地域に愛される発電所」とも掲げており、地域の一員として地域活動に積極的に参加
 - ・柏崎市で開催されたえんま市の翌日(6月17日)、地域の皆さまが行う清掃活動に、原子力・立地本部長の福田、発電所長の稲垣をはじめとした社員約30名が参加
- 信頼される発電所に向け、今後も「志」の実践を積み重ねていく

出社バス降車場所でのあいさつ運動（右側が発電所長）



えんま市の清掃活動を行う原子力・立地本部長

